

グルタチオン-デキストラン結合体の体内動態と肝指向性

金尾義治, 加納 聡, 田中哲郎, 小川享子, 井口定男

薬剤学, 52 (Sup), 22-23 (1992)

The Disposition and Hepatic Accumulation of Glutathione-Dextran Conjugate

Yoshiharu Kaneo, Satoshi Kano, Tetsuro Tanaka
Kyoko Ogawa and Sadao Iguchi

抄録 デキストランにスペーサとしてオクタメチレンジアミン($\text{H}_2\text{N}(\text{CH}_2)_8\text{NH}_2$)を導入し, そのアミノ基末端にフルオレセインイソチオシアネートを結合した蛍光標識体(FTC-D)を合成した。FTC-Dをマウスに静注すると血漿中に高い滞留性が認められ, 約8hの半減期で見かけ上一次速度過程に従って消失した。FTC-Dはマウスの各組織へ速やかに分布するが, 中でも肝への取り込みが特異的に高かった。また, 腎, 肺, 脾, 血漿など主要組織中の蛍光が1~2dで消失するのに対して, 肝では5dを経ても高い値を保ち, FTC-Dの蓄積が認められた。静注したFTC-Dのほぼ同量(各35%)がそれぞれ尿中と糞中へ排泄されることから, 肝へ取り込まれ, 胆汁へ移行する割合が多いことが示唆された。さらに肝への取り込みには著しい投与量依存性があり, 低投与量ほど肝へ移行する割合が増加した。またデキストランを前投与したマウスではFTC-Dの肝や胆汁中への移行が抑制され, その取り込みに飽和性があることが示唆された。